

巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

高知女子大学看護学会は、わが国の看護会で最初に誕生した学会です。第1回の学会は昭和51年、永国寺キャンパスの階段教室で開催されています。初代会長であられた和井兼尾先生は、「日常の実践活動の中から、看護の科学的解明と実証を認め、討議を重ね、看護学確立への努力をなさしまして、この学会を権威あるものに発展させて頂くことを強く願うものであります。」と述べられています。学会のプログラム内容は、先輩諸氏による講演、シンポジウム、研究発表と多彩であり、4回生も参加して、卒業研究を発表しています。先輩方は、看護の学会の意味とその役割、そして、看護学構築の必要性を熱く語っておられました。卒業して間もない私も、そのエネルギーと看護学に対するコミットメントに感動したことを大変鮮明に覚えています。

あれから、37年が経過し、今年から高知女子大学看護学会長をお引き受けいたしました。今や看護系の大学は209校を越え、修士課程は147、博士課程は71と、看護学は着実に堅実に力を発揮してまいりました。看護系学会も38となりました。

高知女子大学は、これらの歴史の第1ページを拓き、かつ看護の大学教育を牽引し、学部・修士・博士課程を設置している大学として発展してきました。和井先生が明言されましたように、本看護学会は看護学の確立に向けて、学会誌の充実をはかり、年2巻の発刊と、論文数15の掲載を目指して編纂しているところです。本巻には、多様な看護現象を取り上げた研究論文をはじめ、本学の教育成果である学部の卒業論文、修士論文、博士論文などが掲載されています。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。

本学会の最近の活動のひとつとしては、「看護師能力認証制度」に対して以下のような内容の意見を送りました。『看護師が裁量権を獲得し、看護の幅を広げ、看護の守備範囲を拡大していくことで、国民の健康格差の是正や国民の健康を守ることができると考えている。しかしながら、今回の提案は医行為中心の制度設計あり、看護学を基盤とした制度設計に修正することを求めています。特に、①看護の専門性に基づいた特定行為とそれへの教育制度の設計、②能力認証の認証は、看護学の学会を中心として関連機関と協同した第三機関が行うべきある。③保助看法を改正し、医師による「直接指示」を盛り込む予定であるが、直接指示を記載することは反対である。そもそもチーム医療を推進することを出発とし、チーム医療の論理は多職種専門性を尊重するということが大前提であるにもかかわらず、保助看法に直接指示を盛り込むことは、この論理に反することであり、時代の流れにも逆行するものである。』

看護界では看護師能力認証の問題をはじめとして、様々な課題を抱え、変動の中にあります。

高知女子大学看護学会は、看護界の自律に向けて皆様方とともに取り組んでいきたいと思ひます。